

令和５年度第２回 岡山県スポーツ推進審議会の議事概要

【開催概要】

- 日 時 令和６年２月７日（水）１４：３０～１６：００
- 会 場 ピュアリティまきび ２Ｆ千鳥の間（岡山市北区下石井２-６-４１）
- 出席者 <委員（五十音順）>
- 米谷会長、三村副会長、赤木委員、居原田委員、上田委員、
坂本委員、泉水委員、長尾委員、那須（拓）委員、松井委員、
三宅委員
- ※委員１５人中１１人の出席であり、本審議会は成立
- <事務局>
- 環境文化部：大熊環境文化部長、久山文化スポーツ振興監、
岡本参与（おかやまマラソン担当）、
村上国民スポーツ大会推進室長、
山本スポーツ振興課長
- 子ども・福祉部：藤原障害福祉課総括参事
- 教 育 庁：片岡保健体育課長

１ 開 会

２ あいさつ

○環境文化部長あいさつ

- ・この度の令和６年能登半島地震で亡くなられた方々に、心からお悔やみ申し上げるとともに、被災された皆様の生活が平穏に復すること、被災地の復旧復興を、お祈り申し上げます。
- ・昨年１１月１２日に開催されたおかやまマラソンでは、フルマラソンの定員がコロナ禍前に戻され、県の内外、国外からの参加もあり、完全復活した岡山ならではのマラソンを楽しんでもらうことができた。
- ・西日本で初めての開催となる「晴れて輝け！おかやま国スポ」についても、来年１月の開催に向けて、着々と準備を進めているところである。
- ・この年末年始もスポーツ界での岡山旋風が続いており、全国高校駅伝男子での倉敷高校２位、全国中学校駅伝では京山中学校が男女とも優勝、春高バレーでの就実高校優勝、ボクシング世界王者となったユーリ阿久井選手など、スポーツが地域に与えるインパクト、スポーツの力を実感している。
- ・本日は、来年度のスポーツの推進に係る主な事業及びスポーツ団体への補助金について諮るほか、フリーディスカッションでは、「子どもにとって適切なスポーツ環境の確保に向けて」をテーマとしている。限られた時間ではあ

るが、忌憚のないご意見を頂戴したい。

3 議 事

※資料に沿ってまとめているため、必ずしも発言順ではない。

(1) 令和6年度スポーツの推進に係る主な事業について

資料1

■事務局説明（スポーツ振興課長）

- ・資料に沿って説明

■質疑等

①基本施策Ⅰ（多様な主体におけるライフステージに応じた運動・スポーツ活動の機会創出）関係

【子ども・若者の運動・スポーツ活動の推進】

（委員）

- ・おかやまスポーツナビについて、一日のログイン数はどの程度か。

（スポーツ振興課長）

- ・令和3年度の年間閲覧数は45,000件。指導者のマッチングについても、これからの活用で増やしていきたいと考えている。

【学校における体育・スポーツ活動の充実】

（委員）

- ・スペシャルサポーター派遣事業は今年度どのような形で実施されたのか。

（保健体育課長）

- ・今年度まで行われた事業である。体育授業を苦手と感じている教員について、大学生や退職した教員を各学校に派遣して、ティーム・ティーチング（T2）の形で入ってもらう。それによって授業力の改善を図るという事業。実際、教員の負担感は軽減されたが、T1にはどうしても知識としてかなわないところがある。授業改善にまでは繋がらないという反省があった。人気のあった事業ではあったが、今年度で終了し、より体育授業の改善に直結するであろう、今回の新規事業に踏み切った。

（委員）

- ・私も国の事業で小学校体育に入っていたことがある。現場での先生との打ち合わせにある程度の時間を要することから、先生自身も負担に感じていることを実感した。教員の働き方改革もあり、新規事業においても、どのように打ち合わせをするのが課題であると考えている。

(委員)

- ・体力向上推進リーダー配置事業について、非常勤の教員を配置するという
ことか。また、どの程度の学校数に配置する予定か。学校が希望するところ
に配置されるのか。そのあたりのシステムをお聞きしたい。

(保健体育課長)

- ・県南、県北の各2校ずつで調整しており、中学校区に体育専科の教諭を配
置する計画である。現状、人員が厳しい状況であり、非常勤ではないが、
講師になる可能性もある。体育の専門知識をもった先生をリーダーとして
派遣して、中学校区の小学校を回り、体育授業の改善を図る。

(委員)

- ・その2校は決まっているのか。

(保健体育課長)

- ・現在調整中である。

(委員)

- ・現職の先生の中から派遣するということか。

(保健体育課長)

- ・理想的なパターンは小学校の体育に精通している中堅の先生の配置だが、
現状は難しい。中学校体育の免許を持っている講師にお願いするかもしれ
ない。今調整しているのは、小学校の先生。例えば小体連で活躍している
先生を配置できるように調整中である。

(委員)

- ・現職の先生だと忙しくて大変だと思う。外部講師がよいのではないかと
思う。現場の中から先生を選出するのは厳しいのではないだろうか。

(会長)

- ・柔軟に対応すると受け止めればよいか。

(保健体育課長)

- ・小学生の体力を一番に考えると、小学校の先生のうち、体育授業に精通し
ている先生を配置するのが最も効果的である。最善の努力をしていきたい
が、現状は厳しいため、必ずしもそうなるとは限らない。

(委員)

- ・元気な高齢者が多い。退職した先生方で、もう学校に戻りたくないという
人が半分くらいいる。退職した先生をボランティアとして活用できるよう
な方策を検討してはどうか。

(保健体育課長)

- ・退職した先生の力を借りることも想定して調整をしているところである。

(委員)

- ・運動習慣の環境づくりについて、予算が少し減っているが、理由は何で
あるのか。

(保健体育課長)

- ・令和5年度がホームページの更新をする年度であった。それがなくなることによる減額と、Aバッジや運動マスターバッジなど、子どもたちが達成したときにバッジを与えるが、そのストックがかなりあるため、作するための予算を減額した。事業の縮小ではない。

(会長)

- ・部活動指導員配置事業について、中学校150校について、どれぐらいの割合で増えているのか。

(保健体育課長)

- ・令和5年度の人数配置として、147人分の予算を確保している。市町村立中学校配置数が、平日196人。ここで約50人の増。まずは休日の部活動から段階的にということで、新規に休日分の60人を確保。市町村立中学校配置数と併せて、約110人分増える形で要求している。県立については25人が27人。全額県費のため厳しかった。休日8人とあるが、こちらは県立中学校分。新たに別枠で確保した。

(会長)

- ・来年度に向けて、各市町村の中学校に聞いた上での概算と理解すればよいのか。

(保健体育課長)

- ・市町村からの希望を反映しているものである。

(委員)

- ・令和8年度全国中学校体育大会選手育成事業について、中体連の大会が縮小化されるという報道があった。部活動地域移行が進められている段階であるが、この辺りはどのように変わっていくのか、現時点での考えを聞きたい。

(保健体育課長)

- ・令和9年度大会から、方向性を見直す予定であり、令和8年度大会は、現行の形での最後の大会となる。部活動の地域移行については、国において令和5年から7年を改革推進期間としており、大会に出場する形態が中学校の部活動だけでなく、クラブチームが参加する形態も、もしかしたらあるかもしれない。我々も見通しが不明確ではあるが、様々なこと想定して準備を進めてまいりたい。令和9年度以降は、新聞報道等による情報しかないが、例えば全中開催期間の2週間前に水泳連盟主催のジュニアオリンピックがあるので、それと兼ねた大会を全中ですするという話がある。また、出場範囲について、今は「中国地方で何校」となっているが、「中四国で何校」とするような再検討をするという話もある。国により明確な方針が示されていない状況ではあるが、注視しながら大会の準備を進め、成功の

ために全力を尽くしてまいりたい。

(委員)

- ・全中に参加する選手の育成等にかかる事業費が、部活動主体となるのか、地域クラブ主体となるのか、まだはっきりしていない状況ではあるが、選手の育成の在り方について心配している。

(保健体育課長)

- ・全中に参加する選手の育成について、基本的には、それぞれの学校ではなく県の中体連等にご協力いただいている。中体連やそれぞれの競技団体にもご協力いただく中で、岡山県の子どもたちにとって一番良い形で選手育成ができるよう検討してまいりたい。

(委員)

- ・全中に関連して、情報提供をさせていただく。令和9年度から新体制となるが、中体連のプロジェクト会議の中でも様々な意見が出ており、まだまとまっていない。強化費については、現時点で、中学生であれば地域クラブ活動であっても強化費を充てていこうと検討しているが、これについても賛否両論ある。地域クラブ活動が全中に参加すると、地域クラブ活動に所属している選手の方が良い成績を残すので、部活動の大会だったはずが、上位は地域クラブ活動同士の戦いになる。そこに中学校の教員が役員として出るという矛盾を孕むことにもなる。そうしたことを踏まえて、今後の全中の在り方を考える必要がある。また、現場の先生方も、全中を縮小したとしても、各中学校を代表する部活動の枠組みで続ける方が良いのではないかという意見を、少なからず持たれているとも聞いている。

②基本施策Ⅳ（スポーツ環境の整備）関係

【スポーツ施設の機能の充実と活用の促進】

(委員)

- ・大規模改修として、多くの工事を予定しているが、世界情勢や今回の地震の影響等による材料不足、価格高騰が懸念される。トイレ洋式化、LED化等、どの工事も大切なものであるが、適正な執行額となるよう実施してほしい。

(スポーツ振興課長)

- ・予算額については、物価上昇分を加味した要求額となっており、工期についても余裕をもって工事を進めることができるよう実施してまいりたい。工事にあたっては競争入札により業者を決定することとしており、価格についても競争性が働くと考えている。

(会長)

- ・津山総合体育館と美作ラグビー・サッカー場は、老朽化が進んでいる。必要な工事がされることは、よいことである。

(委員)

- ・総合グラウンドのトイレについては、洋式化はどうなっているのか。

(スポーツ振興課長)

- ・所管が都市計画課であり、担当課にお話しさせてもらう。県有施設については、個別施設計画に沿って計画的に改修を行っている。要望を踏まえながら、可能な限り予算要求をしてまいりたい。

(委員)

- ・利用者数は津山・美作と総合グラウンドでは絶対数が違う。所管が異なるのは承知しているが、県外からアスリートを迎えた時に恥ずかしくない設備が必要だと思う。岡山県総合グラウンドコンソーシアム・チーム岡山の会議でも発言したい。

(環境文化部長)

- ・公共施設のトイレ洋式化は数年前から進めている。総合グラウンドの所管は土木部であるが、順次転換していくことになると思う。本日のご意見は改めて土木部に伝える。洋式化が早く進むような形で、我々も工夫してまいりたい。

(2) 令和6年度スポーツ団体への補助金について

■事務局説明（スポーツ振興課長、保健体育課長）

- ・資料に沿って説明

■質疑等

(委員)

- ・学校運動部のあり方が令和9年度から変わるということだ。競技力強化で、中体連に補助金として出すこと自体も変化があるだろう。その辺りを中体連と保健体育課で情報を共有して、理想的で的を射たような形にしていきたい。競技力強化は地域クラブ活動が担うのか、学校部活動が担うのか。深掘りして進めてもらいたい。

(保健体育課長)

- ・令和9年度以降、大会のあり方がどうなるかということを注視しながら、我々としても、本県の中学生・高校生にとってよい形でスポーツ・文化環境を整備する必要があると考えている。

4 フリーディスカッション

資料2

テーマ

「子どもにとって適切なスポーツ環境の確保に向けて」

■事務局説明（スポーツ振興課長）

（スポーツ振興課長）

- ・委員の皆様方から多数のテーマを提案いただいたことに感謝申し上げます。
- ・必ずしも結論を出すことを目的とするものではないが、様々な立場からの意見を聞いて、これからの県のスポーツ推進施策に活かしてまいりたい。

■フリーディスカッション

（会長）

- ・第1回審議会に続いて子どものスポーツ環境をテーマにしているが、今回は、委員の皆様からいただいた具体的な話題を資料2に記載している。こちらに沿って意見を伺いたい。

（委員）

- ・一番に考えることは安全性の確保である。施設の安全性についても必要だし、指導者が注意を払うことも大切。子どもの興味が湧くようなことを考える必要がある。

（会長）

- ・すべてに通じる内容だと思う。乳児からジュニア・ユースの時期まで、それぞれ環境整備や指導の方法という課題がある。

（委員）

- ・NPO子どもセンターに、2か月に1回婦人会で読み聞かせに行っている。0～3歳までの親子に読み聞かせをする。歌いながらの手遊びをやるが、若い世代の母親は知らないため、新鮮に楽しんでもくれる。小さいときから仲間づくりができ、保護者同士の繋がりもできる。地域でそうした場を作ることが最初の段階。こういった繋がりを作ることで、地域で集まってスポーツができる環境に繋がっていけばよい。

（委員）

- ・高齢者は子どもを見ると元気が出る。高齢者を大事にすることは、小さい頃からやっていないと身に着かない。安全性をクリアすれば、色々なところでできると思う。行政として、何か手伝いができないか。学童保育と併せて何かできないか。地域スポーツクラブで子どもたちを遊ばせる仕組みを作って、それが競技に繋がっていけばよい。

（委員）

- ・岡山県では、各県民局と大学がタイアップして、「子育てカレッジ」を開催

している。県北では、美作県民局と美作大学で、0歳児から2歳児をもつ親子を対象に子育て支援の広場「めばえ」を年4回開催している。大学生が子どもと関わるという目的だけでなく、教員が保護者からの相談を受けるところを大学生が見て学ぶという目的もある。この事業では他にも、子育てや子育て支援に関する情報発信、みまっぱ子育て通信「すくすく」を年4回発行し、毎月最終土曜日には相談業務も行っている。また、子育て支援サービス提供者に対する資質向上の取組みとして、ステップアップ研修会も開催している。お母さんが靴を履き替えるときに、学生が子どもの靴を脱がすだけでも、お母さんから「ありがとう、助かる」と言ってもらい、その少しのサポートがあることで子育て支援につながっているということに気づき、学生にとっても学びと成長がある。全身運動をすることを乳児のときの目的としている。わらべ歌遊びなども実施している。何よりも大切なのは、子どもの興味と関心ではないか。

(委員)

- ・0～2歳の中には、障害のある子も入っているのか。

(委員)

- ・障害の有無について、0～2歳児のため判別できない。自由に来てもらってよい。

(委員)

- ・障害のある子どもたちは、専門のセンターで訓練している。そういった子どもの集いに参加できるようになればよい。

(委員)

- ・人気のある講座であり、定員もあるが、ぜひ参加してほしい。

(委員)

- ・子育てカレッジを県立大学で実施している。現場で感じることは、運動にハードルを感じる学生が多いということである。保護者には、何も道具が無くても遊べるということを伝える。学童保育では、子どもがたくさん来ているが、見守る先生が不足しているのが現状であり、見守りが主体になることから、遊びのアイデアまでは出てこない。放課後の過ごし方は一つのキーポイント。運動習慣を作ることと、環境を整えることの二方向からやっていくのが重要である。学童保育にアプローチしたい。また、中学校の運動部活動について、平日に学校でそのままスポーツができるからやっているという子どもが多い。例えば、初心者から剣道を始める中学生がいるが、少年団や武道館などの地域スポーツクラブで始めるかというのと、やらないと思う。初心者でもやってみようかという子どもは、中学校の部活動だから始める。そこにどうアプローチできるか。環境づくりをしたいが、まだよい方法を思いついていない。

(委員)

- ・ 2年前に県外ではあるが、子どもがプールで亡くなる事故があった。学童保育で子どもたちを自由にさせることが難しい現状がある。子ども食堂とスポーツのコラボができないだろうか。子どもたちが自由にできる環境やチャレンジできる場が地域にない。幼稚園保育園、や小学校の期間に様々なスポーツに触れないと次に繋がらない。競技の数ばかり多くて、子どもの数が減れば、競技力は落ちていく。

(副会長)

- ・ 10年前の学生の卒業研究で、遊びやスポーツに必要な3間^{さんま}（時間、空間、仲間）が無くなるというものがあった。部活動にはその3つが揃っている。部活動以外でスポーツができるかという、3間が揃わない。適切なスポーツ環境を考えたときに、空間としての環境を整えても、時間と仲間がないとスポーツができない。大人になるとなおさらである。子ども食堂とコラボして、あえてそういう環境を作るというのも、とても重要であると思った。

(委員)

- ・ 日本版DBSについて、令和5年8月中旬に全国連合から連絡があり、「推進委員がスポーツを指導していますか」というスポーツ庁からの問い合わせがあったということだった。昨年の国会で法律を提案するということだったが、再検討となった。学習塾やスポーツクラブについて、昨年の法案では規制がかからなかった。今年の国会で成立させると言っているが、様々な問題がある。犯罪をしているにも関わらず起訴されなければ表に出てこないし、問い合わせをしても分からない。学校や保育所は採用のハードルが高いが、学習塾やスポーツクラブ、学童保育等については、犯罪歴が分からない不安はある。

(会長)

- ・ 学校、家庭、地域という3つの分類があると思うが、なるべく多くの目で子どもたちを見ることが子どもたちの安全に繋がる。どのようにしてたくさん目を子どもたちに向けさせるかが大切である。そういった地域づくりが、スポーツを通じてできると思う。高校の先生に聞いたが、中学校の運動部活動が変化しているということで、中学校から高校に上がってくる子どもたちもスポーツとの関わりが変化しているそうである。3間がないという状況は、部活動の枠組みでスポーツができていた子どもたちのスポーツをする場が縮小するということでもある。行政、個人、地域のレベルでそうした子どもたちがスポーツをできる環境づくりを進める必要がある。

5 報告事項 資料3

(1) 特別国民体育大会岡山県選手団の成績について

■事務局説明（スポーツ振興課長）

資料に沿って説明

(2) おかやまマラソンについて

■事務局説明（マラソン事務局参与）

資料に沿って説明

(3) 「晴れて輝け！おかやま国スポ」について

■事務局説明（国民スポーツ大会推進室長）

資料に沿って説明

(4) 令和5年度全国高等学校総合体育大会について

■事務局説明（保健体育課長）

資料に沿って説明

■質疑等

(委員)

- ・全国障害者スポーツ大会についても、国体同様、結果とまではいかなくても、少しでも情報を出して広く皆さんに知ってもらいたい。検討をお願いする。

6 閉 会

○文化スポーツ振興監あいさつ

- ・長時間にわたるご審議に感謝する。
- ・特にフリーディスカッションの中では、部活動の地域移行・地域連携という動きがある中で、小さい頃からの地域・世代間の交流という環境が大切だということや、大学・子育て支援団体など複数の団体関わっていくことが大切だというご意見をいただいた。
- ・子育て関係の部局等にも情報共有しながら、課題の解決や新たな取り組みの参考にさせてもらいたい。